

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (R1年度)	目標値 (R4年度)	該当する 目標宣言
自主防災組織の組織率	70.8% (H27.4.1)	79.0%	85.0%	②
総合防災訓練参加者数	2,561人 (H27)	3,500人	4,250人	②
建物系保有量適正化計画における前期の個別施設計画の策定数 (燕市行政改革推進プラン)	5 (R2年度)	—	11	③

1. 目標宣言	
①	大河津分水通水100周年のプロモーションを推進するとともに、ふるさと納税サイトへのウェブプロモーションやお礼の品拡充により、燕の魅力を最大限に発信します！
②	過去の風水害対応の課題を踏まえ、水害に対する防災体制を一層強化します！
③	「建物系公共施設保有量適正化計画」を担当部署と連携して推進するとともに、進捗管理に努め、計画における前期の総括と中期計画に向けた準備を行います！

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定				取組結果		評価	
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標			達成状況		
			指標名	現状値	目標値			実績値
①	<p>・平成30年度から2年連続で、下町ロケットやグランメゾン東京といった高視聴率番組がテレビ放送されたことにより、燕市の知名度が向上し、交流・応援人口の拡大に貢献しました。また、昨年は東京オリンピック・パラリンピックの選手村食堂でおもてなしカトラリーが使用され、燕市を世界にPRすることができました。引き続き、3つの人口増戦略の強化を図るべく次なるプロモーションの展開が必要となっています。</p> <p>・大河津分水通水100周年を契機に、燕市の更なるイメージアップにつながるプロモーションを展開する必要があります。</p> <p>・広報紙とホームページ以外に、SNSや動画コンテンツなどを積極的に活用した情報発信の必要があります。</p> <p>・情報発信に関しては、質の高い情報発信を行うために、職員一人ひとりの意識向上を図る必要があります。</p> <p>・ふるさと納税の受入額については、コロナ禍における巣ごもり需要により、令和2年度には49億円に到達したものの、令和3年度では、特需の一巡による揺り戻しによって44億円に減少。今後とも厳しい状態が続くものと思われまます。</p> <p>・一方で、年々ふるさと納税利用者は増加しているため、新規寄附者の獲得を図る取り組みが重要であり、同時に、本来の趣旨である燕市のファンづくりも進めていく必要があります。</p>	<p>(1)大河津分水通水100周年事業の関係部署と連携して広報計画を作成し、市の情報発信ツールやメディアを活用して各イベントの集客を図るとともに、県内外に先人たちの功績や大河津分水の恵みである産業・観光・農業を広く発信します。</p> <p>(2)公式LINEにおいてアンケート機能などを追加し、さまざまな意見を施策に反映するとともに、日々の市政情報を発信しながら友だち登録者数を増やします。また、公式Twitterでは話題性に富む燕の情報をメインに発信するとともに、市ホームページ上の動画コンテンツの充実を図り、燕のイメージアップを図ります。</p> <p>(3)職員の意識高揚を図るため、ホームページを編集する実務担当者を対象とした研修を5月までに実施します。また、情報発信の質を向上させるため、6月と12月にホームページの全ページチェックを実施します。</p> <p>(4)10月までにふるさと納税に係る仲介サイトの拡充や直営サイトを導入します。</p> <p>(5)Yahoo!等の事業者と連携し、通年でウェブプロモーションを展開することで、ふるさと納税の寄附者増を図ります。また、6月中にInstagramのアカウントを開設し、ファン(フォロワー)の獲得を図ります。</p> <p>(6)ふるさと納税お礼の品提供に係る商工団体と調整を図りながら、ルールの見直しを行います。</p>	<p>100周年特設ページ(HP)のアクセス数</p> <p>LINE友だち数</p> <p>広報アンケート「ホームページは見やすい」と回答した人の割合</p> <p>応援人口(寄附申込者数)</p> <p>寄附申込額</p>	<p>1,400件 (8カ月)</p> <p>9,095人</p> <p>—</p> <p>のべ 137,152人</p> <p>44.6億円</p>	<p>5,000件</p> <p>12,000人</p> <p>75.0%</p> <p>のべ 150,000人</p> <p>50億円</p>	<p>16,079件</p> <p>11,638人</p> <p>74.2%</p> <p>のべ 160,000人</p> <p>54.5億円 (速報値)</p>	<p>(1)通水100周年事業のPR 各課と連携して広報計画を作成し、さまざまな手段で大河津分水を広くPRすることで、市内外に向けて100周年の機運醸成を図るとともに、歴史・役割・恩恵なども発信することで、市民のシビックプライドの醸成にもつなげました。 また、「大河津分水サクスフェスタ」や「つばめ産業・農業まつり」、「声優朗読劇」などのイベントの集客にもつなげることができました。 なお、情報発信にあたっては、燕市PR大使・隊鳥(長)からも協力いただきとともに、国交省や民間団体と連携して実施しました。 100周年の主要事業は終了しましたが、令和5年度以降も、特設サイトをリニューアルするなど、大河津分水の偉大さや恩恵などを広くPRしてまいります。</p> <p>(2)公式LINE・公式Twitter 公式LINEでは平日の正午に市政情報を中心に発信したほか、アンケート機能を新たに追加し、「広報に関するアンケート」を実施しました。なお、当初予定していた予約受付機能については、子育て支援策をさらに充実させるために、子育て中で今後再就職希望の女性向けに企業の採用情報を配信する「ミニイク」の機能拡張に変更しました。 また、公式Twitterでは大河津分水通水100周年関連をはじめとする各種イベント情報や燕の魅力ある情報を日々発信しました。</p> <p>(3)ホームページ 5月には外部講師を招聘してのウェブアクセシビリティ研修を実施し、職員のスキル向上を図りました。 また、各課で公開しているページの総チェックを2回にわたって実施したり、他部署が掲載する新着情報の内容を確認し見やすいページとなるよう指導したりするなど、アクセシビリティの向上はもとより全体にわたりページの見やすさの改善を図りました。</p> <p>(4)7月にInstagramのアカウントを開設するとともに、8月に直営サイト「つばふる」を開設し、特集記事を15件掲載するなど、PRIに取り組みました。12月には、新規仲介サイト「ふるさと本舗」を追加しました。</p> <p>(5)積極的にウェブプロモーションを実施したことで、寄附申込者数・寄附申込額ともに目標を上回る結果となりました。 Instagramでは計画どおり週に2回、記事を投稿し、順調にフォロワー数を伸ばしています。 ※3月末時点でのフォロワー数=1,510人</p> <p>(6)お礼の品提案数の上限を廃止し、各サイトにて、質の高いお礼の品を多数掲載したことで寄附申込者数の増加につながりました。</p>	4

(評価区分) 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (R1年度)	目標値 (R4年度)	該当する 目標宣言
自主防災組織の組織率	70.8% (H27.4.1)	79.0%	85.0%	②
総合防災訓練参加者数	2,561人 (H27)	3,500人	4,250人	②
建物系保有量適正化計画における前期の個別施設計画の策定数 (燕市行政改革推進プラン)	5 (R2年度)	—	11	③

1. 目標宣言	
①	大河津分水通水100周年のプロモーションを推進するとともに、ふるさと納税サイトへのウェブプロモーションやお礼の品拡充により、燕の魅力を最大限に発信します！
②	過去の風水害対応の課題を踏まえ、水害に対する防災体制を一層強化します！
③	「建物系公共施設保有量適正化計画」を担当部署と連携して推進するとともに、進捗管理に努め、計画における前期の総括と中期計画に向けた準備を行います！

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定				取組結果		評価
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標			達成状況	
			指標名	現状値	目標値		
②	<p>過去の風水害対応の課題を踏まえ、整備した防災体制を強化する必要があります。</p> <p>風水害時の避難方法などの備えについて、市民への一層の理解促進に努める必要があります。</p>	<p>(1)風水害想定での総合防災訓練では、実効性を高める訓練を実施します。</p> <p>(2)災害対策本部における風水害時の対応の強化を図ります。</p> <p>(3)国や県等と共催で信濃川・魚野川総合水防演習を実施することにより、水害対応力の強化を図ります。</p> <p>(4)出前講座等の機会に、マイ・タイムラインを活用するなど、市民が水害時の避難行動を理解できるよう取り組みます。</p> <p>(5)速やかな避難を促すには的確な情報伝達が必要のため、防災つばめ〜ルの普及に努めます。</p>	<p>防災訓練参加者数(総合防災訓練参加者数+地域防災訓練参加者数)</p> <p>3,732人</p>	<p>4,250人</p>	<p>6,110人</p>	<p>(1)風水害想定での総合防災訓練を7月3日に実施し、警戒レベル3、4での避難を行ったほか、分散避難も呼びかけ、実行に即した訓練を実施しました(訓練参加者数:3,448人)。</p> <p>(2)災害対策本部訓練を6月23日に行い、風水害時の対応の強化を図りました。</p> <p>(3)6月5日に国や県等と共催で信濃川・魚野川総合水防演習を実施し、水害対応力の強化を図りました。</p> <p>(4)出前講座等の機会に、マイ・タイムラインの周知や作成支援を行い、市民の水害時における避難行動の理解促進を図りました。</p> <p>(5)7月3日の総合防災訓練の際、避難所3カ所にて登録支援ブースを設け、防災つばめ〜ルの普及に努めました。なお、防災情報については、公式LINEや公式Twitterでも発信することから、それらのサイトとの連携を図っていきます。</p>	4
③	<p>平成30年度に、長期にわたる公共施設の集約、統廃合の方向性を示す「建物系公共施設保有量適正化計画」を策定しました。この計画における前期(平成31年度～令和4年度)までに個別の計画が必要な11施設のうち、8つの施設は具体的な方針を示しましたが、残る3施設については、方針が未策定となっています。更に、松長小学校が令和5年度末で統廃合されることになったことにより、その跡地の利活用について検討していく必要があります。</p>	<p>(1)関係部署による庁内会議での検討 ①西燕公民館・②教育センター ・年間を通じ、担当部署と打合せを行い、必要に応じ、全体計画における位置づけの見直しを行います。</p> <p>③松長公民館 ・年度内に、小学校跡地と併せ、利活用方法の検討を進めます。</p> <p>(2)小中川2施設の建設 ①福祉の家・②小中川児童クラブ ・上半期において、新設の方策や解体の時期について話し合いを行い、調整を進めていきます。</p> <p>(3)松長小学校跡地の利活用 ・普通財産化は令和6年度ですが、今年度はこれまでの経過など、教育委員会部局と情報共有を図ります。</p>	<p>市議会への説明(計画前期の総括および統廃合の実績等について)</p>	<p>(1)関係部署による庁内会議での検討 計画前期(令和元年度～令和4年度)に統廃合や集約の検討対象となっている施設について、計画の方向性や現在の状況を総括し、市議会3月定例会において報告しました。 課題が残り、前期で計画を達成できなかった2施設については、引き続き方向性を示せるよう努力します。</p> <p>(2)小中川2施設の建設 「小中川児童クラブ」の建替えや「福祉の家」の解体時期についての内部協議を完了し、関係予算を令和5年度に計上しました。</p> <p>(3)松長小学校跡地の利活用 関係部署との内部協議を繰り返して行いました。今後は、前期から後期に渡っての長期検討施設である「松長公民館」も含め、小学校跡地の利活用について検討を進めていきます。</p>	<p>—</p> <p>12月定例会</p> <p>3月定例会</p>	3	

〈評価区分〉 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中